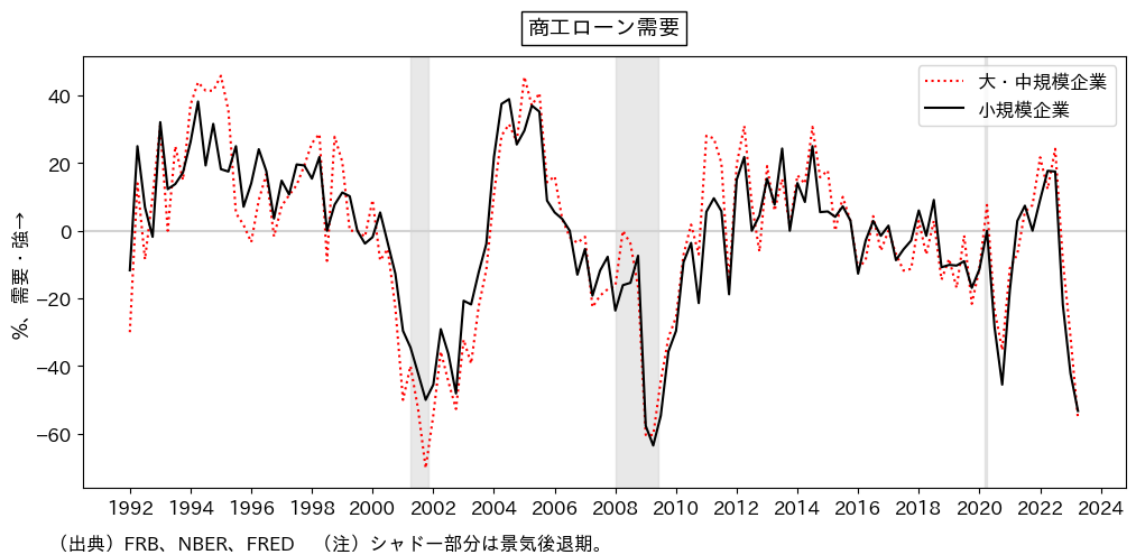
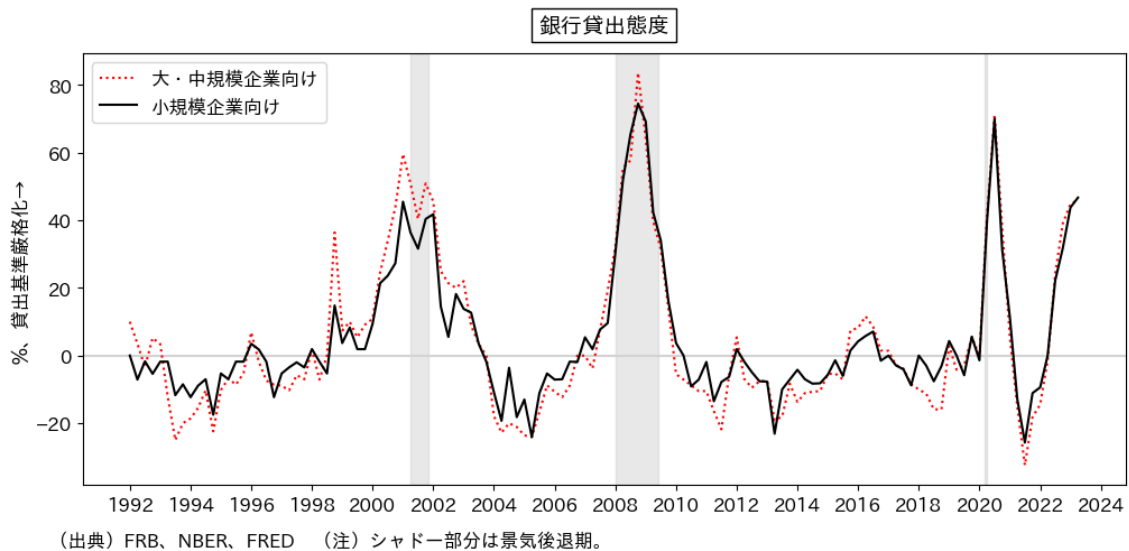


(米国) 小幅な上昇にとどまった貸出基準の厳格化

FRB が 8 日に発表した上級銀行貸出担当者調査(SLOOS、調査期間は 3 月 27 日から 4 月 7 日)によると、足元では、銀行貸出態度が厳格化し、商工ローン需要は軟化したことが明らかとなった。ほぼすべての指標が金融環境の引き締まりを示唆しているものの、とりわけ商工ローン需要が軟化したと報告する銀行の比率の上昇が顕著だった。大・中規模企業向けの貸出需要は差し引き 55.6%(1 月調査では 31.3%)、小規模企業向けは 53.3%(同 42.2%)と大幅に軟化した。

一方で、銀行の貸出態度の厳格化は小幅にとどまったことから、シリコンバレー銀行の破綻から生じた一連の金融不安が急速な信用収縮につながりつつあるわけではないことも明らかとなった。この点は安心材料といえる。



こうしたなか、最新となる4月26日時点での預金と貸出をみると、いずれも横ばいから小幅増加となっている。FRBによる金融引き締めや4月のSLOOSと合わせて考えると、今後も貸出や預金の減少が続く可能性はあるものの、現段階では金融環境の急速な悪化が始まっているとは言い難い。

